

伝達性海綿状脳症の特定部位に係る舌扁桃の 取扱いについて（第2報）

奈良 聡 立崎 元 栗林 一博
村田 伸 古里 聡子 田中 成子
木村 政明 小山田博也 鈴木 稲子
川守 田哲

十和田食肉衛生検査所

Key word : ①扁桃 ②分布状況 ③月齢

I. はじめに

平成13年9月に我が国でBSE（牛海綿状脳症）が発生して以来、と畜場では病原体が高度に蓄積される部位を特定部位として除去している。^[1] 特定部位の頭部には脳、眼、扁桃が含まれ、扁桃についても適切に除去するよう通知されている。^[2]

牛とめん・山羊の扁桃は口蓋、咽頭、舌扁桃の3つに分けられ、口蓋、咽頭扁桃の除去は確実に実施されているが、舌扁桃は舌根部表面に内在するため、分布状況が正確に把握できていなかった。

そこで昨年度、我々は牛の舌扁桃の分布状況を調査し、平成18年4月厚生労働省通知^[3]を参考とした本県の除去方法「舌背側面の両側の有郭乳頭分布部位から舌根部までの背側面及び舌外側縁の舌表面（筋層上方）の除去」で、月齢に関係なく舌扁桃が完全に除去できていることを確認した。

しかし、舌扁桃の発生時期や家畜別の分布状況については、未だ不明な点があるため、さらに知見を深めることとした。

II. 目的

今回の調査では、以下の点について調査を行った。

①牛

昨年度、我々は牛における舌扁桃の分布状況の調査を行い、それまで未調査であった20ヶ月齢以下の牛からも明瞭な舌扁桃が認められることを明らかにした。その中で0ヶ月齢の牛からも明瞭な舌扁桃が認められたことから、胎齢からのどの段階で舌扁桃が形成され始めるのか調査を試みた。

②めん羊

めん羊の舌扁桃は、牛と同様に特定部位に指定されており、と畜場での除去と焼却が義務づけられている。しかし、めん羊の舌扁桃に関する文献^[4]は少なく、その分布状況は把握できていない。そのため現在のところ、めん羊の舌扁桃除去は牛に準じて行っている。そこで今回、と畜場に搬入されためん羊の舌扁桃の分布状況を調査し、その除去方法の検討を行った。

III. 研究方法

管内と畜場に搬入された胎齢4～9ヶ月の牛胎児17頭、0～1ヶ月齢の牛5頭及び0～36ヶ月齢のめん羊14頭の舌を検体として、10%緩衝ホルマリン固定後正中線で左右に分割し、左半分について舌根部から舌尖部方向へ約4mmずつ細切した。その後、常法に従いパラフィン切片を作成し、ヘマトキシリン・エオジン染色後、鏡検し、扁桃組織を確認した。

IV. 結果及び考察

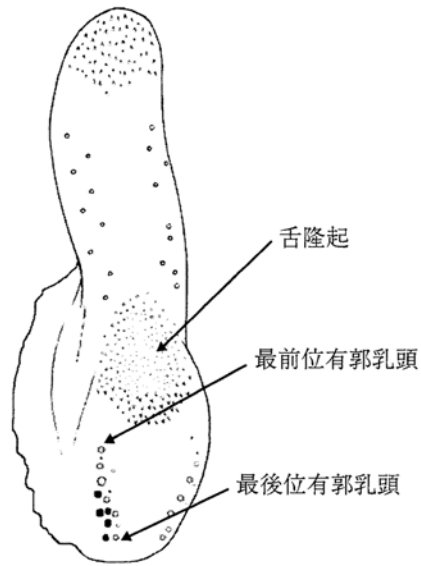
①牛

牛の舌扁桃は、胎齢9ヶ月頃に扁桃組織を形成し始める傾向が認められた。また、今回の結果と以前に厚生労働科学研究事業^{[5][6]}で行われた調査結果を踏まえ、牛の舌扁桃の月齢ごとの分布状況を把握することができた。

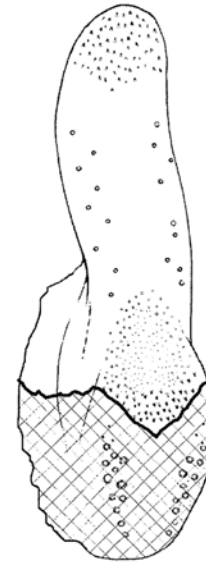
②めん羊

めん羊の舌扁桃は、牛と同様に粘膜固有層のみに存在し、最後位有郭乳頭付近（下図）に分布する傾向が認められた。よって、これまで通り、めん羊の舌においても牛に準じた除去方法が適切であることが確認された。

舌扁桃分布状況
(黒い点)



本県の除去部位
(斜線部の粘膜上皮)



V. 文献

- [1] 厚生労働省医薬局食品保健部長通知：牛の特定危険部位の取扱いについて、食発第 280 号 (2001/09/27)
- [2] 厚生労働省医薬局食品保健部監視安全課長通知：特定危険部位の取扱いについて、食監発第 1119003 号 (2002/11/19)
- [3] 厚生労働省医薬局食品保健部監視安全課長通知：BSE 対策に関する調査について、食監発第 0331005 号 (2006/03/31)
- [4] G.Cocquyt: Anatomical localization and histology of ovine tonsils. *Veterinary Immunology and Immunopathology* 107(2005)79-86
- [5] 平成 17 年度厚生労働科学研究資料
- [6] 平成 18 年度厚生労働科学研究資料